

2022年日本数学会出版賞の推薦募集について

理事長 寺杣 友秀

20世紀以来著しい進展を遂げた数学の研究には我が国の数学者も大きく貢献しており、本会も我が国における数学研究の環境整備に努めて参りました。ところが、数学が高度に専門化したため、数学の果たす重要な役割が一般の方々はもとより、理科系の専門家にも理解されているとは言い難い状況があります。

一方、数学の魅力や巧みに伝える一般向け啓発書が出版されるという誠に喜ばしい事例も昨近相次ぎみられ、本会としましては側面から応援したいと考えております。また、数学諸分野の有機的連携を図り、自然科学、社会科学との協力関係を促進するためにも、数学の魅力や目覚ましい発展の真髄を他分野の専門家のみならず一般にも判りやすく伝える数学者の努力も奨励したいと考えております。

そこで、本会では「出版活動などの著作活動により、数学の研究・教育・普及に顕著な業績をあげた活動を顕彰」するために、日本数学会出版賞を設けて2005年春に授賞を開始し、これまでに、次のように日本数学会出版賞を贈呈しました。

(敬称略，順不同)

2020年

- 神保道夫『量子群とヤン・バクスター方程式』（丸善出版）
(授賞理由) 量子群の概念の登場後、早い時期に日本語による優れた教科書が存在したことはこの分野の研究者層の厚みを確保するのに貢献したものである。最短コースで量子群の基礎を学ぶには現在でも最も適している。一つ分野へ大きな影響を及ぼした著作である。
- 富永星
(授賞理由) 一般読者向けに書かれた海外の啓蒙書や数学入門書を数多く翻訳し、数学の普及に大きく貢献していると評価できる。翻訳は適確かつ分かりやすく、たいへん読みやすいものである。氏の訳本は数学の様々な分野におよび、良質で特徴のある原著が選ばれている。
- 山本義隆『小数と対数の発見』（日本評論社）
(授賞理由) 著者は科学史方面に多数の著作があり、例えば「古典力学の形成」では微分積分学の成立の過程を深く考察している。本作では、天文学をはじめとする科学の発展に伴って、小数と対数の概念が確立していく様子が丁寧に描かれている。一次資料に丹念にあたりながら、分かりやすい説明によって読者を導く良書である。

2019年

- 斎藤毅，河東泰之，小林俊行 編『数学の現在』（東京大学出版会）
(授賞理由) 数学の研究を志す人や、数学を楽しみとする一般の数学ファンにとって、

本当の数学はかなり遠くに位置し、それに触れる機会はほとんどない。本書は大学3年生・4年生あるいはそれらより若い読者を対象として、執筆者の各研究分野をオムニバス形式により、できる限り平易に解説している。専門的な数学を解説する書物は難度が高く、その一方で数学ファンを対象として出版される書物は単なる読み物にとどまることが多い。非専門家向けに書かれた書物で、数学の広い領域に渡り、深淵な数学の本質に迫るものは近年ほとんど見当たらなかった。本書は、この溝を埋める特徴的なものに仕上がっており、数学の教育に対する大きな貢献と評価され、本賞に相応しいものである。

- 『Tokyo Journal of Mathematics』

(授賞理由) Tokyo Journal of Mathematics は河田敬義氏らにより 1978 年に刊行され、以来、東京地区の公立・私立大学により維持運営されている。国内で刊行される雑誌として非常に大きな役割を果たしており、日本における数学研究の幅と厚みの双方を拡大することに貢献してきた。多数の大学数学教室が合同して一つの数学雑誌を運営するという数学雑誌の今後の方向性を指し示すものと評価され、本賞に相応しいものである。

- 本間龍雄

(授賞理由) 位相幾何学・トポロジーという概念がほとんど知られていない時期から、一般向けに、これらの概念を紹介する書物を出版し、トポロジーの面白さ、不思議さを多くの人々に伝えることに大きく貢献してきた。本間氏の啓蒙書は執筆当時での最新の研究成果を盛り込んでいる点に大きな特色があり、今日でも学部生の教育に活用できる水準であることも氏の著作の特色であり、本賞に相応しいものである。

2018 年

- 遠藤寛子『算法少女』(ちくま学芸文庫, 筑摩書房)

(授賞理由) 安永四年に刊行された和算書「算法少女」の成立をめぐる史実を下敷きにして、千葉あきという 13 歳の少女を主人公に、江戸時代において和算がいかにか庶民のあいだに広まっていたかを生き生きと描き出した少年少女向けの歴史小説である。本書は、和算のみならず学問の魅力が一般向けに描かれていること、和算の雰囲気なるべく正確に伝えていること、本書を原作とした漫画・アニメーション作品も発表されていることから、誰にでも楽しめる数学啓蒙書であり、本賞に相応しいものである。

- 奥村晴彦, 黒木裕介『LaTeX2e 美文書作成入門』(技術評論社)

(授賞理由) 本書は 1997 年に初版が刊行されて以来、改訂を重ねているロングセラーの書籍である。LaTeX のオーソドックスな基礎知識かつ最新情報を得られる書籍として定評があり、長年にわたって数学関連分野における LaTeX の普及に多大な貢献をしたと考えられる。日本語 LaTeX は本書で紹介されているアスキー系の pLaTeX のほかに、NTT-JTeX など多くの先達の努力の積み重ねによって発達したものであり、そうした過去の取り組みについても大いに評価しなければならないが、本賞が「出版活動などの著作活動」を対象としていることに鑑みて、本賞に相応しいものである。

2018年より前の情報は、<https://www.mathsoc.jp/interested/pubprize/> をご覧ください。

2022年日本数学会出版賞の会員による推薦を次の要領で募集します。

2022年日本数学会出版賞の推薦要領

- **趣旨** 出版活動などの著作活動により、数学の研究・教育・普及に顕著な業績をあげた活動を顕彰
- **対象** 著作物、もしくは著作物等の著者、編集者、制作者、出版者などの個人または団体。
 - * 特定の著作物等のみならず、個人・出版者等による普及活動全般も対象とします。
 - * 個人に授賞する場合は、授賞発表時点での存命者に限ります。
 - * 「著作物等」には、書籍、雑誌、ビデオ、DVD、電子媒体等を含みます。論文は研究業績を顕彰する他の賞の対象でもありますので、原則として対象とは致しません。
 - 著作物等の場合に想定する対象としては、数学専門家向け書籍・雑誌、数学専攻大学院生向け専門書、学部学生用教科書、大学生・高校生・中学生・小学生等を対象とする啓発著作物等、非数学者向けの専門書籍・雑誌、一般を対象とする啓発著作物等が考えられますが、これら以外でも、賞の趣旨に適うものが推薦されてくれば審査対象とします。
 - 和算関係の著作物等も対象とします。
 - 著作物等の場合、原則として日本語によるものを対象としますが、日本人著者による外国語でのオリジナルな著作物等や、日本語による著作物等を翻訳して世界に普及させたものも対象とします。
 - 日本語への翻訳著作物等も、訳者、編集者、出版者を対象とします。
 - 著作物等の場合、審査時点で入手可能なもののみを対象とします（推薦時に現物を提出する必要はありませんが、選考委員会が推薦者に対して審査対象著作物等の一時貸与を御願いする場合があります）。
- **推薦件数等** 他薦（各会員毎の件数は問わない）
- **推薦書類** A4 版用紙 2 枚以内に、次の事項を御記載下さい。
 1. 推薦者氏名、数学会会員番号、連絡先住所、電話番号、電子メール宛先。
 2. 特定の著作物等に関して推薦して頂く場合には、顕彰すべき対象と著作物等の書誌事項（著作者名・翻訳者名等、著作物等題名、出版者等名称、出版年、その他）。
 3. 編集者・制作者・出版者等に関してその活動を推薦して頂く場合には、その対象名と顕彰対象とすべき具体的事項。
 4. 推薦して頂く理由。
- **推薦書提出締切** 2021年6月30日（水）（必着）
- **推薦書提出宛先** 〒110-0016 東京都台東区台東1丁目34-8
日本数学会出版賞選考委員会 宛

2022年日本数学会出版賞推薦書

必ずしも本書式を使用しなくて結構です。他薦する各候補毎に、下記の必要事項を A4用紙2枚以内 に御記載下さい。

推薦書提出締切 2021年6月30日（水）（必着）

推薦書提出先 〒110-0016 東京都台東区台東1丁目34-8 日本数学会出版賞選考委員会

- 推薦者氏名
 - * 数学会会員番号
 - * 連絡先住所
 - * 電話番号
 - * 電子メール宛先

- 他薦する候補（件数は問いません。本号掲載の推薦要領を御覧下さい。）
 - * 特定の著作物等の場合
 - 顕彰すべき対象
 - 著作物等の書誌事項（著作者名・翻訳者名等，著作物等題名，出版者等名称，出版年等）
 - * 編集者・制作者・出版者の活動の場合
 - 顕彰すべき対象名
 - 顕彰対象とすべき具体的事項

- 推薦理由